がんばろう
末崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第２８２号
平成３０年　５月２１日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F 兼）29-2955

末崎町の石碑・祠・神社（10）

10　馬頭観世音について～その２

(3)　建立年代

気仙地域の馬頭観世音碑で最古のものは 1710 年代に住田町に建立されています。末崎町では文政元年(1818 年)に神坂の熊野神社境内に建立されています。(現在は境内にありますが、元々は他所にあったものを、宅地造成や道路改良等により現在地に移転した可能性もあります)

最後に建立されたのは、陸前高田市では昭和 45 年(1970 年)、末崎町では昭和元年(1926 年)となっております。

現代では、この考え方は「魚霊供養碑」「犬霊供養碑」「猫供養碑」等として引き継がれております。

(4)　分布状況

気仙地域の分布状況は、大船渡市 64 基、陸前高田市 105 基、住田町 72 基、旧三陸町 24 基、合計 265 基で、庚申塔碑に次いで多い石碑になっています。

末崎町の分布状況は次のとおりとなっています。(紀)

峯岸	イワギマエ	1 基
神坂	熊野神社　境内	3 基
平	公民館隣(平野哲哉氏宅敷地内)	1 基
梅神	屋敷(故細川大八氏宅裏)	1 基
中井	寶龍神社境内	1 基
中井	熊谷竹二郎氏家	1 基
西舘	道路分岐点　石碑群の中	2 基
	合計	10 基

馬頭明王（建立年不詳）

中井　寶龍神社境内　大きさ 17 ㎝× 27 ㎝

写真の文字

これからの山林管理

所有する山林を如何に維持管理していくかが課題となっています。

山下草刈りや枝打ち、杉や松の間伐採後は、家を建てる自己活用を考えます。

伐採後、植林を諦めてしまう。

この状態に危機感を持った国は、森林は、水をはぐくみ、山地災害などから国土を守るとともに、豊かな自然環境の形成を通じて、私たちの生活に潤いと安らぎを与えてくれています。また、地球温暖化防止の観点からも、温室効果ガスの一つである二酸化炭素の吸収源としての役割を担っています。このように大切な役割をもつ森林は、いわば「緑の社会資本」として国民共通の財産となっています。

そこで、森林を育成し健全な状態に保つ作業に対して、国と都道府県による補助制度を設けた。それが、植え付け、下刈り、除伐、保育間伐・間伐、更新伐、鳥獣被害対策・荒廃竹林整備、路網整備等に対する補助である。

ただし、計画書を作成して提出し認可を受けること。計画書は森林組合などで見積り人件費）が高騰しているので、

利益が直接現在の売却代金から、売却してもほとんどは売却した。

利益を管理費、伐採費や枝打ち、間伐等の費用を差引くと利益はでない。

植林にかかる有余年、投下した資金を考える。

植林をしなければ、現在の山林は荒れていった。

管理の特に主とした山林の維持管理費用（主として採算が合わない。

管理費は、売却した材木は、っ管理し建築材料のはを木材を管理する。

伐採した材を自己活用する。

植林前だ、需要があり外国産の安い木材が入ってくる。

植林した杉や松は、価格が安くなり、

植林した山林は、高いが、

植林した山林は、

植林した山林は、

植林した山林は